

2020.08.06.Thursday

学修・教育開発センター（CRED）



「社会と向き合うプロジェクト」

スタートアップセミナー自主自律の二本目の柱、「社会と向き合うプロジェクト」が終了いたしました。授業設計と内容についてご報告します。

後半から始まった「社会と向き合うプロジェクト」では、自分たちがどのように自主自律の道を歩むのかを考えはじめる契機となるように、現代において女性の活躍を阻むものに様々な視点からアプローチし、女性を取り巻く現実を認識し自分が生きていく際に道標となる価値観や指針をチームで考える機会とすることをねらいとしています。

学生は学科混成の5ないしは6人のチームでテーマを決め、テーマに基づく資料調査やインタビュー調査などを行い、チームの中で考えを深めていきます。今年のテーマとしては「幼少期のジェンダー教育」や「アンコンシャスバイアス」などがありました。また、最終発表では、大学生の視点で解決策の提案をしました。前述のジェンダー教育では、インタビュー結果か

ら性差を感じている人がいることに注目し、北欧のジェンダー教育との比較から、親や幼少期にジェンダー教育を行うことの重要性を指摘すると共に、まず大学内での講演会の実施、専用ホームページやSNSで大学生が情報発信することが提案されました。その他にも歴史パートで学んだ各学科の特徴を活かした提案がされていました。

「社会と向き合うプロジェクト」を通じて、これから自分たちがどのように「自主自律」を体現していくのか考える契機となれば幸いです。



授業の感想を紹介します

社会と向き合うプロジェクトが終了した段階で、学生同士で発表をピアレビューし、その結果をもとにチームごとに活動の自己評価をおこないました。いくつかのチームのコメントを紹介します。

- 発表では、テーマに対して、なぜ疑問を持ったのかを提示することで内容が理解してもらいやすくなったのではと思いました。テーマが決まるまで時間はかかったものの、たくさんの意見がでたおかげでいいテーマや、オリジナル性のある解決策が生まれました。今あることだけを使ってどうにかしようと思わず、自分たちで新しく解決策を生み出そうとするところが、チームの1番よかったところだと思います。
- この授業をするまでは将来のことや女性の会社での立場をあまり考えたことがなかったが、今回の調べ学習を通していろいろなことをしり、将来のことを考えるきっかけとなった。
- はじめはオンラインということで不安な面が多々ありましたが、一人一人が積極的に発言をし、チームに貢献することができたと思います。練習や話し合いの際から意見を出しやすい環境をみんなで作り、目的から解決策まで各自が把握し真剣に取り組めたのでよかったです。短い期間でしたがチームで協力し、それぞれが自分の役割を全うして最後発表まで持って行くことができ、発表もうまくいったので協同活動が成功したと感じます。

教員からのレポート

協同学習の取組みと新たな課題



富谷 智 准教授

家政学部
服飾美術学科

今年度は「歴史から学ぶ」パートから、様々な危機的状況下においても修学の意志を貫いた先達と、学修が厳しい現在の状況を重ねて、歴史を自身のものとして捉えることが出来た事は大きな成果だったと思います。続く「社会と向き合う」パートでは、前半の意気が引き継がれ、高い集中度のなか、チームメンバーが課題と真摯に向き合う姿勢が観られました。今回、コンテンツによる事前・事後学習の取組みにより、個人的な学習の深まりには効果が感じられましたが、一方でチームでの協同学習の難しさは顕在

化したように思います。デバイスを駆使して円滑な協働を行うためには、今までとは質の異なる「コミュニケーション能力」が求められている事を強く感じます。

未だ構内に足を踏み入れる事も叶わない新入生ですが、グループワークでは通信不良による欠員や一時的中断などにも臨機応変、急遽役割を分担し、柔軟に対応して協働を進める姿勢が窺えました。人間形成の場を提供することも自校教育の数ある目的の一つと捉えると、コロナ禍の影響もマイナスだけとは言えないかもしれません。

SAからのレポート

昨年度は受講生、今年はSAをつとめていただいているOさんに、なぜSAになったのか、SAとして活動してみたの感想をいただきました。

去年、他学科の学生との交流ができること、東京家政大学や女性の活躍について学びを深めるというこの授業にとても魅力を感じて今年はSAとして参加させていただきました。

新入生に寄り添える上級生でありたいと思い、manabaの掲示板を使って新入生からの質問を受けたり、グループワーク中に積極的に声をかけたりとSAとしての活動は自分にとっても非常に価値のある経験となりました。新入生にとって少しでも良い影響を与えられたSAであったらいいなと思っています。

後半の授業では社会パートとして女性の社会進出を阻むものについて考え、その解決策を提案し発表をしました。新入

生はオンライン上でグループ活動をすることで戸惑っている様子も見られましたが、授業外でも話し合いを重ねて様々な意見を出し合うことができ、私も刺激を受けました。前半の歴史パートで学んだ東京家政大学の施設と連携した解決策を提案、ポスターを作成や、SNSの活用など学生の自分たちが取り組める内容で考え他のグループとの交流も深められました。発表ではパワーポイントを使用し、よりわかりやすい発表への工夫が見られました。

この授業が新入生にとってもSAにとっても将来必ず役にたつと思います。先生がた、CREDの方々、新入生のみなさんありがとうございました。



O.Hさん

家政学部
栄養学科 管理栄養士専攻
2年